

製品名: カスパーゼ-7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07980**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:300
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP7
別名	CASP7; MCH3; Caspase-7; CASP-7; Apoptotic protease Mch-3; CMH-1; ICE-like apoptotic protease 3; ICE-LAP3
遺伝子 ID	840.0
SwissProt ID	P55210
免疫原	カスパーゼ7由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 160-240

背景

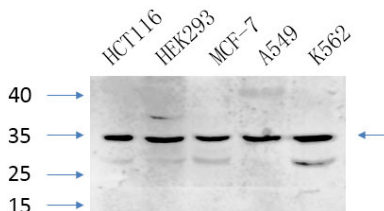
この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードします。カスパーゼの連続的

な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体を形成して活性酵素を形成します。コードされているタンパク質の前駆体はカスパーゼ3および10によって切断され、細胞死刺激によって活性化され、アポトーシスを誘導します。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012年5月]、触媒活性: P1 位に Asp 残基が必須であり、優先切断配列は Asp-Glu-Val-Asp-| である。、酵素調節: イサチンスルホンアミドによって阻害される。、機能: アポトーシスを誘導するカスパーゼの活性化カスケードに参与する。ステロール調節エレメント結合タンパク質 (SREBP) を切断・活性化する。ポリ (ADP-リボース) ポリメラーゼ (PARP) を「216-Asp-|Gly-217」結合でタンパク質分解的に切断する。過剰発現はプログラム細胞死を促進する。、PTM: グランザイム B またはカスパーゼ 10 による切断により、2つの活性サブユニットが生成される。プロペプチドドメインはカスパーゼ3によっても効率的に切断される。カスパーゼ7の小サブユニットとカスパーゼ3の大サブユニットの間には、活性ヘテロ二量体 (およびその逆) も存在する。、類似性: ペプチダーゼ C14A ファミリーに属する。、サブユニット: 20 kDa (p20) サブユニットと 11 kDa (p11) サブユニットからなる、2つの逆平行に配列したヘテロ二量体からなるヘテロ四量体。、組織特異性: 肺、骨格筋、肝臓、腎臓、脾臓、心臓で高発現し、精巣では中程度に発現する。脳では発現しない。、

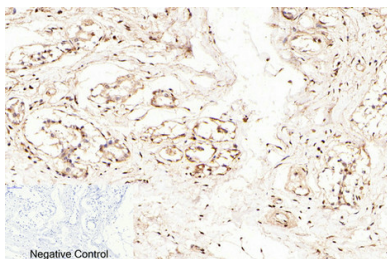
研究分野

アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;アルツハイマー病;

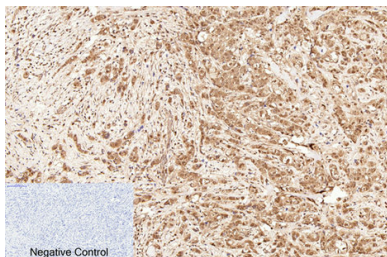
画像データ



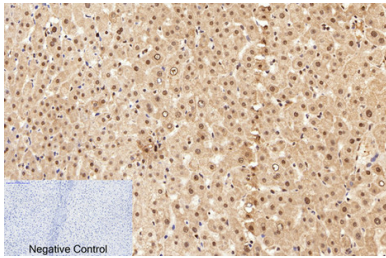
1:1000 希釈の Caspase-7 ウサギポリクローナル抗体 (4°C、一晩) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25°C、1 時間)。



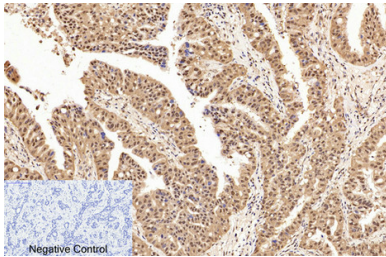
パラフィン包埋ヒト乳房組織の免疫組織化学染色。1. カスパーゼ-7 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



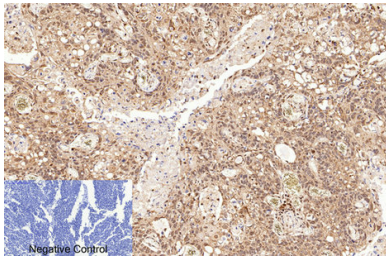
パラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。1. カスパーゼ-7 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



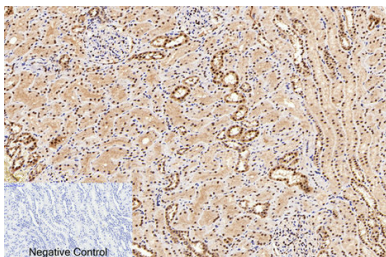
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. カスパーゼ-7 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



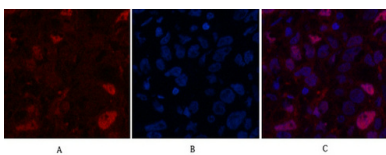
パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. カスパーゼ-7 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



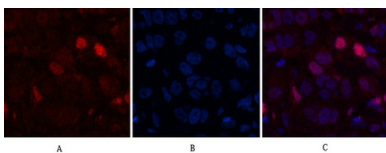
パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. カスパーゼ-7 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト腎臓組織の免疫組織化学染色。1. カスパーゼ-7 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, カスパーゼ7 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50分)。3, 図 B: DAPI (青) 10分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A と B の融合。



ヒト乳がん組織の免疫蛍光染色。1, カスパーゼ7 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50分)。3, 図 B: DAPI (青) 10分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A と B の融合。